



1_冬の神室連峰。10月頃までは全国からの登山客で賑わう。 2_鉤掛森には美しいブナ林が広がる。 3_紅葉で色づく初秋の竜馬山。
4_上台峠から望む金山三峰。左端が薬師山。

当町からは「日本二百名山」「花の百名山」としても知られる神室山をはじめ、鉤掛森、竜馬山、薬師山が「やまがた百名山」に。最

金山からは4山が選定

平成28年8月11日。新たな国民の祝日として『山の日』が誕生しました。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」。祝日法では山の日制定の趣旨をこのように明記しています。制定を受け、地域の宝である山に光を当てようとして、山形県独自で選定したのが「やまがた百名山」。選定にあたっては、公募のあった県内244の山々から、利用状況や地域との関わり合いなど、様々な側面から検討を重ね、専門家が判断しました。

やまがた百名山って？



= 当町から選定された4山の位置 =

「やまがた百名山」が決定

金山からは神室山・鉤掛森・竜馬山・薬師山の4つ

上7町村では最多となる4山が選定されました。

まずは言わずと知れた神室山。最上地域を代表する標高1,365mの山です。険しい稜線を四方にめぐらせている神室連峰は東北のアルプスと呼ばれ、登山客が多く訪れます。鉤掛森は美しいブナ林が魅力。グリーンバレー神室奥に登山口があり、森林浴などの散策で訪れる人も多い山です。最も信仰が強く霊山として知られているのが竜馬山。大同3年(808年)の大洪水で削りとられたという断崖絶壁は神秘的な雰囲気をつくりだしています。上台峠を越えて視界が広がった先に見える金山三峰、その主峰が薬師山です。金山の代表的な景観のひとつとなっています。

これからも山と一緒に

金山町は町域の4分の3が森林。金山の皆さんは幼い頃から山とふれあい、山に見守られながら成長してきました。「やまがた百名山」に4山が選定された通り、町には多くの人々に愛される山が存在します。写真のように四季折々で違った顔を見せる金山の山々。金山町はこれからも誇り高い山とともに生きていきます。